TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

真実のベル　人は結果を刈り取る
ガラテヤの信徒への手紙 6:1-10

2023 年 8 月 26 日 & 27 日
ジェシー・セザリオ　牧師

ごあいさつ
TBC ウェスト トウキョウ、TBC 三郷、福岡国際キリスト教会、そしてスバとトンガのバプテスト教会の皆さん、おはようございます。
主であり救い主であるイエス・キリストの恵みが、今日、お一人一人にありますように。

ガラテヤの信徒への手紙 6:1-10
「きょうだいたち、もし誰かが過ちに陥ったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正しなさい。あなた自身も誘惑されないように、自分に気をつけなさい。
互いに重荷を担いなさい。そうすれば、キリストの律法を全うすることになります。何者でもないのに、自分を何者かであると思う人がいるなら、その人は自らを欺いているのです。おのおの自分の行いを吟味しなさい。そうすれば、自分だけには誇れるとしても、他人には誇れなくなるでしょう。おのおのが自分の荷を負うことになるのです。御言葉を教えてもらう人は、教えてくれる人と良いものをすべて分かち合いなさい。
思い違いをしてはなりません。神は侮られるような方ではありません。人は、自分の蒔いたものを、また刈り取ることになるのです。自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、霊に蒔く者は、霊から永遠の命を刈り取ります。たゆまず善を行いましょう。倦むことなく励んでいれば、時が来て、刈り取ることになります。
それゆえ、機会のある度に、すべての人に対して、特に信仰によって家族になった人々に対して、善を行いましょう。」

はじめに
私たち人間は皆、何かを作る者です。神は私たち一人ひとりを、実を結び、増えるよう招きます。主がアダムとエバに語られた創世記の時代から私達はそうするよう言われています。主は人類に「産めよ、増えよ 」と言われたのです。しかし、私たちがアダムにあって一部とされているこの元の木は、地上の物、物質的な物、肉的な物です。そして終わりの時が来ると、この木は終わりを迎えます。

キリストを信じる者は、その木から取り出され、新しい木に接ぎ木されました。霊的な木です。この木はイエス・キリストに根ざしています。これは新しい木ですが、信仰者たちは同じ目標を与えられています。これが大宣教命令と呼ばれるものです。イエスはこの大宣教命令を次のような意味で言われました。「それゆえ、行って、わたしの木を増やし、これらの枝にわたしの命令に従うことによる本当に実を結ぶ方法を教えなさい。」
この 2 つはほぼ同じメッセージです。しかし、結ぶのは別の種類の実です。これは終わりのない実です。永遠の価値を持つ実です。そしてこの実こそ、私たち自身がそれによって祝福され、それを宝とする実なのです。
今日のメッセージで、パウロは私たちがどのようにして終わりのない良い実を結ぶことが出来るか、私たちに収穫をもたらす農産物をどのように作れるかを教えます。今日の聖書箇所でパウロは、人生において、永遠に続く収穫を得る方法を教えようとしているのです。

最初に：旧約聖書からの例
アブラハムはメソポタミアで生まれました。使徒言行録 7 章 2 節によれば、神はメソポタミアでアブラハムの前に現れ、アブラハムはそこで私達の神を信じる者となりました。そして、神はアブラハムに、自分の家を出て旅に出るように言われました。
メソポタミアのあの瞬間で、アブラハムはもう完了したのでしょうか？「完了した」とはどういうことかと聞かれるかもしれません。「彼の信仰の旅はもう完了したのでしょうか」という意味です。
そしてその質問への答えが、まだ完了していない、ということも私達にはわかっています。アブラハムは神を信じました。そうです。しかし彼にはまだそこから先があったのです。

アブラハムの生涯の他のいくつかの場面を通して彼の信仰が私達、旧約聖書の読者に伝わってきます。信仰には始まりがあり、信仰はその人の人生にすぐに変化をもたらしますが、神への信仰は時を超えて信仰者の人生にずっと影響を与え続けるのです。その人の選択次第でそうなるのです。

私達は皆、信仰の浮き沈みを経験します。そしてアブラハムも例外ではありませんでした。アブラハムにも素晴らしい信仰を示した時と信仰が足りずに失敗してしまう時がありました。
創世記 14 章では、4 人の王からなる一団がアブラハムの甥ロトを奇襲し、捕虜にして財産をすべて奪い取りました。そこでアブラハムは、彼を取り返すために信仰によって行動を起こします。兄弟、そして甥でもあるロトを助けるためでした。アブラハムは民兵を集め、4 人の王に対して 1 人の部族長として戦いに行き、勝利してロトとその全財産を取り戻しました。

これはアブラハムが素晴らしい信仰を示した時と言えます。神が彼と共におられました。創世記 15 章で、戦いに勝利したアブラハム、別名アブラムに、神は 1 節でこう告げます。「恐れるな、アブラムよ。私はあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい。」

神が彼に「何も心配しないで大丈夫だ」と言った時に、次にアブラハムは何をしたでしょうか。アブラハムは自分には財産と約束の地の相続人がいないことが心配になったのです。
そこで神は 5 節で彼に言いました。「天を見上げて、星を数えることができるなら、数えてみなさい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」と言われたのです。
この直後の 6 節にパウロとヤコブが好んで使う有名なセリフがあります。「アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」
アブラハムが義とされたのでしょうか。そうです。なぜでしょうか。信仰のゆえです。

まだアブラハムは完了していないでしょうか。
まだです。自分に息子がいないことが不安になり、神の約束への一瞬の信仰の欠如から、アブラムは妻サラの悪いアドバイスを聞き入れ、神の約束を自分で果たそうと、サラの女奴隷ハガルと寝たのです。神の将来への約束に対する何という信仰の欠如でしょう！アブラハムはすぐに結果がほしかったのです。
この一瞬の信仰の欠如の後どうなるのでしょうか。ハガルは妊娠し、アブラハムの妻サラはそれを喜びませんでした。アブラハムは悪い結果を刈り取るでしょうか。もちろんそうなりました。なぜならこの後、アブラハムの妻との関係は傷つき元に戻りませんでした。自分で蒔いた種は自分で刈り取るのですよ！アブラハム。

その後の彼の生き方はどうだったでしょう。良い時も悪い時もありました。しかし、彼は自分の荷を負い続けなければならず、彼は自分の

家族の面倒を見ました。そしてアブラハムの本当の継承者である息子がその約束を相続するために育てられたのです。
創世記 24:1 に書かれているように、アブラハムはすべてのことにおいて祝福されたことが後になると私たちにもわかります。ですので、振り返ってみるとアブラハムは信仰と愛で蒔いた祝福を刈り取ることが出来たのです。
私たちは信仰者としてそれぞれに物語があり、それぞれに信仰の歩みがあります。それぞれが神への信仰を試される経験をし、キリストの律法を全うする機会もあります。
イエスを知り、ヨハネによる福音書 8:56 でイエスの日を見ていたとあるアブラハムのように、私たちは約束されている通り救われた信仰者となります。そしてまた彼と同じように私達も様々なことで苦しむのです。

一瞬の信仰の欠如により私達も自分で何かをどうにかしようとしてしまうかもしれません。しかし、私達には約束があります。
「あなたがたの間で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までにその業を完成してくださるのです。」フィリピの信徒への手紙 1:6

宣教の動機
パウロはガラテヤの信徒達に与えられた自由の中で肉の行いを行なっている者がいると言った後で、「過ちに陥った」者に気を付けるように言います。
これはロトに起こったことにとても良く似ています。「陥る」というのは、ギリシャ語で「不意打ち」を意味する軍事用語です。ある意味ここでは誘惑で待ち伏せされるという意味です。それは誰にでも起こり得ます。それが起こると、ロトのようにどうにも出来なくなり、捕えられてしまいます。

アブラハムはロトを助けに行きました。アブラハムは自分自身の家族の一員であった甥を愛し、自分には彼を救う義務があることを知っていました。
交わりの中にいる者は、誰もが待ち伏せされ、捕らわれる可能性があることを覚えている必要があります。そして、ここにあるように兄弟姉妹がどんな罪であれ罪に捕らわれているなら、私達はその人を助けに行くべきです。私達にはそうする義務があります。私達の助けなしにはその人達は逃れられないからです。
アブラハムの場合と同様、助けに行く人達も捕らわれてしまう可能性があるのでこれは危険な任務になるかもしれません。だからパウロは、誰が、どのようにするかを教えています。

パウロはここで、霊的な人々とは堕落した者を回復させる人々だと言っています。では、パウロにとって霊的であるとは何でしょう。
それはキリストに似た人格を指しています。つまり、愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制が生き方に表れている人のことです。そしてキリストのように人が贖われ, 救われるのを見たいと願う人です。群れに関心のない雇い人や、ファリサイ派のように他人を非難したい人ではありません。
とはいえ霊的な人でも自分も罪に陥り、捕らえられてしまう可能性があるので気をつけなければなりません。だからパウロは、これをするには柔和な霊をもって行うことが絶対に必要であると言います。厳しい霊はその人をもっと遠くに追いやってしまうかもしれません。
つまり、私たちは捕らわれの身となっている人がいるか知っていなければならないということです。彼らに手を差し伸べ、大丈夫か尋ねる必要があります。もしその人達が助けを必要としているけれど、気付いた人がどうしたらいいかわからない場合は、他の人の助けが必要かもしれません。

これこそ私たちがスモールグループに所属し、ビブリカルカウンセリングがあり、TBC に牧会スタッフがいる理由です。そのような状況にある人々を助けるためにそれらはあるのです。

救い主の動機
気を付けなければなりません。贖いの働きの中で相手をもっと遠くに押しやるようなことはしたくありません。そうではなく次のようにするよう言われています。
「互いに重荷を担いなさい。そうすれば、キリストの律法を全うすることになります。」

私たちが行う全てのことは、キリストの律法を全うするためにしなければなりません。これがイエス・キリストに従う者として「何をすべきか」を考える時に私たちが目指すべきことです。
だからパウロは、人々の必要を知り、彼らを助けてその必要に応えることを選ぶことでそれを実行するよう説明しています。

フィリピの信徒への手紙 2:3「 何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考えなさい。」

しかし、そこには助ける者への罠が潜んでいる可能性があります。 キリストにある兄弟姉妹が罪を犯したと聞くことがあります。その時、私たちは喜んでこう思うべきでしょうか。「罪を犯したのが私でなくてよかった。私は賢いからそうせずにすんだ。」これは罠です。
パウロは、私たちがこのように考えることを知っていて次のように言います。「何者でもないのに、自分を何者かであると思う人がいるなら、その人は自らを欺いているのです。」

これはプライドです。これは肉的な思いです。私たちはこのように反応すべきではありません。パウロは、私たちが応答すべき方法は自分自身の歩みを吟味すべきだと言います。私たちを支えている神の恵みに関して、それを自分のしたことだと決して思わないようにということです。

そして、この警告はもう一つの罠にも有効です。「彼らは私がいなければ何もできない！」という罠です。
なぜならパウロは、私たちは自分がどれだけのことをしているかではなく、むしろ自分の奴隷としての姿そのものを見るべきだと言っています。本当に自分を誇りたいなら、自分がどれだけ人に仕える奴隷になったかを考えるべきなのです。

キリストの奴隷になるということです。キリストのように神の御国のために犠牲を払うことです。それは大変な仕事に思えるかもしれません。そして時に大変なことも実際にあります。だから感謝なことにパウロは私達の助けとなる指示をもう一つ与えてくれました。パウロは主が私たちにするよう召されたことに対して、私たちにはその責任がまだあることを思い出させてくれています。
これは私たち自身が運ばなければならない荷物であり、ギリシャ語では cargo「積み荷」です。だから私たちはこれら全ての働きを他の人のためにする時に、私たちは自分自身の必要をまず優先させなければなりません。自分自身や家族のニーズ、そして自分の義務などです。簡単に言えば、ミニストリーが自分自身の明らかな必要を無視する言い訳になってはならいけないということです。

そして 6 節でもう 1 つ指示が与えられます。パウロはこう言います。「御言葉を教えてもらう人は、教えてくれる人と良いものをすべて分かち合いなさい。」なぜ急にこの発言なのか不思議にも思えます。
この発言は場違いに見えるかもしれないですが、使徒言行録 6 章の文脈でこれを見るとわかると思います。これは教会のミニストリーの円滑化の素晴らしい例で、他の人がプライドを持たない助けにもなります。
使徒言行録 6 章では、弟子たちが非常に増えていたと書かれています。そのため、使徒たちは毎日の夕食の交わりを行なっていくのに苦労していました。参加者から文句が出ていました。

この文脈から、彼らは神の御言葉の宣教に加え、給仕するウェイターとしても忙しく、全員に十分な食事を提供することが出来なかったことがわかります。

そこで彼らは他の人、時には執事として 7 人を給仕係、そして兄弟姉妹に仕えるよう任命しました。これは使徒達が祈り、そして御言葉を教えたり、説教して他の人に仕える務めに時間を割けるようになるためでした。
「ウェイターとして働くのは、教えるよりもずっと重労働だ」と言う人がいるかもしれません。私は大学時代、アメリカでウェイターとして何年も働きました。確かにとても大変です。
しかしパウロは、神の御言葉を教える人達もまた、助け、共に分かち合っていく必要があるということを思い起こさせてくれています。

神の御言葉の働きと説教が教会の優先事項であることは間違いありません。しかし、決して他にもあるミニストリーの優先事項がそれゆえになくなっていいわけではありません。どちらも必要です。
神の御言葉を宣べ伝えずに、どう増えていけるでしょう。また、愛するとは何をすべきかを教えられずに、どうやって愛の実を結べるでしょう。

パウロがこれを教会への教えとして書いていることを覚えておかなければなりません。これはガラテヤにあるキリストの体であり、交わりへの手紙です。そしてその文脈でパウロは、真理を知った人々が交わりの中で互いにどのように愛し合う必要があるかについて語っているのです。

東京のような大都会で、しかも今日のようなワークライフバランスの中で、私たちはこれをどのようにすればいいのでしょうか。
教会の礼拝以外でも集ることを優先していきましょう。TBC ではこのような集まりをスモールグループと呼んでいます。
スモールグループは、教会の成長、維持、そして信仰者個人の成長のために大切です。なぜなら、霊的成長は孤立した中では起こらないからです。

あなたはキリストのようになりたいですか。霊的成長を経験したいですか。他の信仰者と一緒に過ごさずにどうやってそれをするのでしょう。出来ません。スモールグループに入っていますか。入っていないなら、メッセージアウトラインの裏にある情報を参照してください。
スモールグループに参加する理由はもっとあります。

さらなる動機
ガラテヤの信徒への手紙の中で、パウロは 2 つの概念の間を行ったり来たりしています。信仰と行いです。キリストを信じる信仰によって、私たちの救いは完了し、キリストにある救いを維持するために私たちがしなければならないことは何もありません。しかしパウロは、私たちが御霊によって歩む時、私たちの信仰が生きて働いているとも教えています。

自分の内にキリストがいるというのはこういうことです。そして、パウロは私たちのためにはっきり説明します。迷い出てしまった兄弟姉妹を救い、互いに愛し合いなさい。これがキリストに似た人格を持つための最も実践的な適用です。
7 節を見ると、パウロは普遍的真理を述べています。普遍的な真理とは、広く受け入れられている真理で、異議を申し立てることが出来ない真理です。
普遍的というのは、誰でも、いつでも、どこでもそれは必ず起こるからです。だから肉で蒔こうが、霊で蒔こうが刈り取るのです。どちらの場合でも起こります。人は自分が蒔いたものを刈り取るのです。

私たちが育てることのできる実には 2 種類しかありません。悪い実と良い実です。こうお考えになるかもしれません。「わからない。もし信仰者なら、古いアダムの木から切り離され、今は新しいイエスの木につながれているのに」

パウロも指摘しているように、それは考えるほどはっきり分かれているものではありません。なぜなら、人はそれぞれが良い実も悪い実もならせることが出来るからです。
ガラテヤの信徒への手紙 5: 17
「肉の望むことは霊に反し、霊の望むことは肉に反するからです。この二つは互いに対立し、そのため、あなたがたは自分のしたいと思うことができないのです。」
不思議ですよね。今、信仰者は古い物と新しい物、両方の実を生むことが出来るのです。

「キングサリ‘アダミー’」のことを聞いたことがありますか。フランスにある有名な木で、不思議な木なのです。実は園芸学的には異常なのです。接ぎ木した枝が元の木の黄色い花を咲かせ、接ぎ木された新しい木はピンクの花を咲かせ、木がピンクと黄色の不思議な花を咲かせるのです。

キリストの内に私達がいる時、同じように不思議なことが起こり、私達はキリストの霊的な実を結ぶようになります。しかし、私達にはまだ古い肉の実を結ぶ力もあるのです。私達もまた、両方の実を結ぶことができる不思議な例外的な存在なのです。
どちらの実を実らせるかは、一人ひとりの選択によります。その選択によって、いずれ自分が収穫する物が決まります。
アブラハムのように、いずれ自分の人生を混乱させる肉的な実の結び方を選ぶか、神に祝福される霊の実を選ぶかの選択肢があります。なぜなら神は、キリストにある新しい木の実と花だけが欲しいのであって、古い物や混ざった物はほしくない、と言っておられるからです。

私たち人間はとても近視眼的です。そして地上の報酬では心満たされません。しかし聖書は何度も何度も、いずれ裁きがあることを私達に思い出させてくれます。キリストが再臨される日が来るのです。私達がキリストの御前に立つ日が来ます。しかし今こそ、この人生でより良い選択をするためには知恵が必要なのです。

どうすればより良い選択が出来るでしょうか。その答えは私達が救われた理由と同じで信仰によります。
パウロはすでに私たちがキリストにあって自由であることを教えました。私達は律法の下にはいません。私たちは恵みの下にいます。どんな罪も私達を有罪とすることは出来ません。
私達には恵みが与えられているから、自己中心的で汚れた者となっても良いと思わないでください。私達が犯すすべての間違いに対して神の恵みは与えられます。しかし私達が罪を犯し続け、肉の中で生き続けるためにキリストは私達を救ったのではありません。
私達の神は義なる神です。そして、神は私達の間違った行いを見て見ぬふりはされません。神は侮られるような方ではありません。

例話
1960 年代に「マシュマロ・テスト」という実験がありました。聞いたことがありますか。
子どもが部屋にいて、職員がやってきてマシュマロを与えます。テーブルの並べ方はおかしく、マシュマロは子供達の鼻の目の前にあります。そして職員は言います。「すぐにもう一つマシュマロを持って来ます。でももし私が戻る前にマシュマロを食べたらあげられません。」
子供たちは誘惑に勝てません。マシュマロで遊び、匂いを嗅ぎ、なめ、キスし、かじり始めます。2 個目を手に入れたのは、子供達のうちの約 3 分の 1 でした。
ではどうでしょう。もし私達が同じ実験に参加したらどうでしょう。簡単でしょう？

このテストを全く変えるのは何でしょう。価値のある物。お金。そう、もちろんです。もし誰かが私達に1万ドルを渡し、30年後までそれを使わなかったらもう1万ドルをあげると言ったら。状況は違うかもしれませんが、それでも失敗する人はいるでしょう。
もし誰かが私達に1万ドルを渡し、30年後までそれを使わなかったら100万ドルをあげると言ったら。これならもっと多くの人が待つかもしれませんが、それでも失敗する人はいるでしょう。

ではどうでしょう。マシュマロといくら使ってもなくならないデビットカードを比べてみてください。私ならどうすると思いますか。私なら部屋を出て、誘惑するマシュマロに振り返ることなく、限度額なしのデビットカードを手に入れる日を待つでしょう。

ここで私達の信仰が出て来ます。私達は一体誰に仕え、私達に与えられる報酬はどれ程のものだと考えているでしょうか。誰に仕えるのか、報酬が何かが小さいほど、私達のモチベーションは小さくなり、大きいほど報酬も大きくなるのです。
コロサイの信徒への手紙 3:23-24
「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい。あなたがたは、相続にあずかるという報いを主から受けることを知っています。主キリストに仕えなさい。」

信仰によって行動する一つひとつの機会が、結果として報酬をもたらすのです。問題は、私達が何を期待し、誰に仕えているのかということです。

結論
アブラハムから学びましょう。間違いを犯しながらも、彼はどのようにして成し遂げたのでしょう。アブラハムはどのようにして、地上と永遠に続く収穫を得たのでしょう。
アブラハムは信仰の過ちを犯しながらも、とても成功を収めました。それは、信仰によって自分が救い主である神に仕えていることを知り、信仰によって神ご自身が自分の大いなる収穫であるという約束を信じたからです。アブラハムはそれを決して忘れませんでした。そうして彼は任務を成し遂げたのです。
アブラハムのように、真の収穫に目を留め、私たちの神であり救い主であるイエス・キリストに目を留め続けましょう。これは私たちの霊的な父であるアブラハムに対して言われたことです。これはアブラハムへの約束であり、私達への約束でもあります。
「キリストを信じる者たちよ、恐れるな。イエスはあなたの盾であり、非常に大きな報酬である」

聖書には、すべての人が罪を犯し、すべての人が罪に捕らわれて滅びると書いてあります。しかし神は、御子イエス・キリストを私たちの救い主として遣わされました。イエス・キリストは、私達の罪のために十字架上で死なれましたが、3日後に死からよみがえられ、死に打ち勝つ力を示されました。そして、私達が救われるのは、義の行いによるのではなく、救い主を信じる信仰によるのです。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」 ヨハネによる福音書 3:16

イエス・キリストを信じましょう。イエス・キリストを信じる信仰によってのみ、今すぐ神の恵みと赦しを受けることが出来、イエス・キリストを通して永遠の収穫を得ることが出来るのです。

祈りましょう。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg3523jp

★クラス 101
教会員（TBC メンバー）になるためのクラス
9月9日（土）13:30～17:30
参加条件: どなたでも

★クラス 201
クリスチャンとして成長するために
9月30日（土）13:30～17:30
参加条件: クラス 101 を修了しメンバーになった方
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu